



講演する末永教授

法学部特別講演会 企業統治と商法改正 講師に末永・阪大大学院教授
法学部司法試験対策委員会主催の特別講演会が末永敏和大阪大学大学院教授(現司法試験審査委員)を講師に迎え12月5日、神田キャンパスで開かれた。末永教授は「コーポレート・ガバナンス(企業統治)と商法改正」をテーマに企業統治論流行の背景や現状と改革の方向性、01年及び02年の商法改正の問題点と今後の見通しなどについて講演した。



講演するウマA・セガル教授

児童虐待テーマに法学部学術講演会 米ミズーリ大・セガル教授

12月12日、神田キャンパスで、米ミズーリ大学セントルイス校社会福祉学部のウマA・セガル教授を講師に迎え、法学部学術講演会が開かれた。同教授は児童虐待問題の東西の意識についての世界的研究者で、今回は日本で行われる研究大会参加と日米の専門家の認識の違いについて、比較調査を岩井宜子法学部教授と共同で行うため来日したもの。本学での講演は3回目となる。

[1月15日/ニュース専修5面]

学部発信－文学部－ 専門を系統的、学際的に学習

1966年(昭41)設立当時の文学部は、国文学科、英米文学科、人文学科の3学科構成でしたが、96年(平8)に人文学科から心理学科が独立し、4学科となりました。01年度(平13)からは4学科6専攻3コース制をとり、学科のみならず専攻に1年次から分かれて、専門教育を受けることになりました。

文学部は設立当初から人文科学を中心としながらも、社会科学、自然科学をも含む多様な学科・コースで構成されており、それぞれの専門を系統的に深く学びかつ学際的に学べるように、必修科目を少なくし、他学科、他コース科目も比較的自由に選択・履修することが出来るようになっていきます。01年度からは、学科・専攻にとられずにあるテーマに関して学際的・総合的に学習するシステム「テーマ学習」を設けました。「テーマ学習」を選択すると所属学科・専攻は入学時と変わりませんが、一定の条件下で学科・専攻の学習システムから解放され、特定のテーマについて探求します。

文学部ではゼミナール、実験・実習などの少人数教育・参加型学習を中心軸に据えています。文学部の学生は1年次からゼミナールに参加しますので、教授や他の学生とのface to faceの対面的な知的交流なく4年間を過ごすということはありません。4年間の学習成果としてほとんどの学生が卒業論文を執筆するのも文学部の特徴です。

各学科について見てみましょう。日本語日本文学科は、日本語に深い理解と認識をもち、日本語情報処理能力を備え、日本語教育の面で、国際社会で活躍出来る学生を育てる日本語学専攻、古典文学、近現代文学の研究に加えて日本文学に関わる文化についても学ぶ日本文学文化専攻からなっています。英語英米文学科は英語そのものの運用力を高めるコミュニケーションコース、英米の文化的背景を探求しつつ言葉としての英語を極める言語文化コース、とりあえず英語を学びつつ次のステップを考える英語総合コースから成っています。人文学科は、哲学・思想分野と芸術・宗教・精神分析等の文科系を学ぶことをとおして人間のあり方、生き方にせまる哲学人間学専攻、日本史・東洋史・西洋史および考古学から成る歴史学専攻、「環境」を人文地理学、自然地理学の双方から成る歴史学専攻、「環境」を人文地理学、自然地理学の双方から、実習・現地調査等の実地教育を重視しながら総合知・世界知としての地域研究を学ぶ環境地理学専攻、人びとの暮らしの場を対象にその現実の実証研究を行うと共に社会学理論の学習をとおして社会的思考・方法を身につけることをめざす社会学専攻から成っています。心理学科は、人間の意識や行動、それをもたらす精神活動や心理的機能について、実証的・科学的に解明することをめざしています。

文学部を希望する皆さん、あなたは専門進化型の学習、専門を基礎とする学際的学習、テーマ追求型学習のいずれを選択しますか？

(カリキュラム委員長・宇都榮子)

[1月15日/ニュース専修5面]